

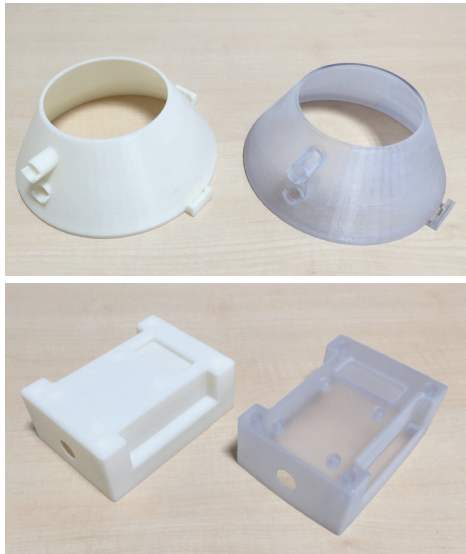


本社工場

洛陽プラスチック株式会社

主な事業内容

プラスチック・アルミの切削加工、パネルシートなどの試作



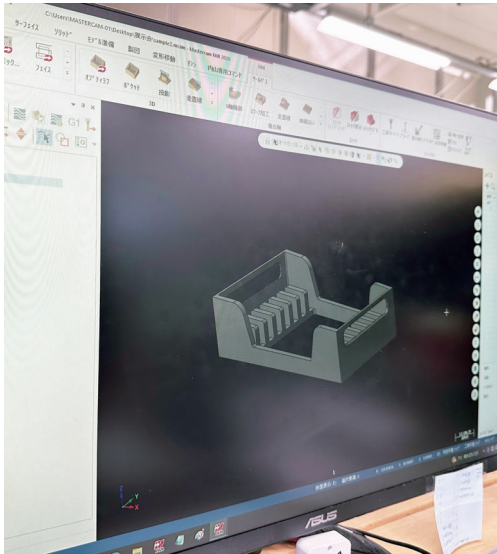
プラスチック加工部品

プラスチック・アルミ切削加工

プラスチック加工の悩みをプロの視点で解決

主な製品

プラスチック・アルミ部品、エンボスパネルシート



図面を描く3DCADシステム



切削加工を行う工作機械

事業内容と沿革

プラ切削加工一筋で技術、ノウハウを蓄積

昭和42年、本田英嗣社長の祖父にあたる本田智氏がプラスチック加工技術を基に起業、京都市南区に洛陽プラスチック株式会社を設立した。創業者の智氏が死去した後、祖母のツヤ子氏、母の寿恵子氏が社長を引き継ぎ、平成26年に英嗣氏が4代目社長に就任した。

設立当初からプラスチックの切削加工を手がけ、旋盤や彫刻機などの設備で、大手電機メーカー向けにスイッチやリレーなどのプラスチック部品を製造してきた。丁寧な仕事が評価され顧客からの注文は拡大し、能力増強のため昭和59年に宇治市に本社工場を移転、平成17年には宇治市内の現在地に移転した。

材料選定から試作、切削加工、印刷、品質管理までを一貫して行うことで技術、ノウハウを蓄積してきた。様々なプラスチック素材の特性に応じて、低コスト、短納期で安定した量産を実現する方法を編み出すなど、顧客に満足してもらう工夫を続けている。

強み

会社を改革、 全社一丸で顧客対応力を強化

一貫してプラスチック加工を手がけてきた同社の強みは、長年蓄積してきたノウハウを生かして、顧客の加工に関するあらゆる悩みを解決できる点にある。プラスチックだけでなくアルミなど様々な素材の加工に関して広い経験と専門的な知識を持ち、他社が断るような難しい注文にも極力応える姿勢で臨んできた。

こうした顧客対応力を強化するため、本田英嗣社長は就任後、会社改革に踏み切った。「昔ながらの職人に頼った仕事の進め方では、若い人を採用、定着させられない」と判断し、新卒採用を積極化した。若い人材を集め、「モノづくりの力を共有して、皆と一緒に成長していく会社」を目指し、社員間のコミュニケーションを重視する。かつては年輩の職人たちが若手に積極的に教えることをせず「見て盗め」という体質だったのに対し、新鋭機械の導入と社員間のコミュニケーション

加工に関する「何とかして」を何とかします！

お客さまの加工品に関するあらゆる悩みに向き合い、長年のプラスチック・アルミ部品切削加工の経験、技術をベースに対応することを強みとしています。難しい加工にも挑戦し、「何とかして」を「何とかしよう」という精神で、お客さまの最後の駆け込み寺となります。



代表取締役

本田 英嗣さん

AIのこれからに注目しています！

住 所	〒611-0033 京都府宇治市大久保町西ノ端1-24
T E L	0774-48-1969
F A X	0774-48-1967
創 業	昭和42年6月
設 立	昭和42年6月
資本金	1,500万円
従業員	35名

<http://rakuyo.com/>



向上で、「周囲の社員が何をしているかがオープンになり、相互に刺激し合って技術を高められるようになった」(本田社長)という。社内での勉強会開催や希望に応じて外部研修も受けられるなど、組織的な人材育成制度の整備を進めている。

会社の仕組みを変え、製造現場と営業など部署間の垣根をなくしたことで、顧客への対応力という同社の強みが一層際立つことになった。営業のメンバーは製造現場で活躍した人材を揃えている。もともと樹脂切削加工やアルミ切削加工を経験してきただけに、商談の中で顧客の要望を聞き、的確な答えを出すことができる。顧客が開発した製品の部材、部品の設計図面やイメージから実際の加工を想定し、加工のプロフェッショナルの視点から製造リスクや設計改善などの提案も行える。

実際に加工を行う製造現場の改善も常に行っている。工作機械の数値制御(NC)化を早くから行い、加工の自動化を進める一方、5軸加工機の導入で複雑形状の加工も可能にして顧客満足度を高めている。

今後の展開

新たな加工に取り組み、 ワクワク感のある会社に

本田社長は自社の将来像を「ワクワク感のある会社になりたい」と話す。加工業として「様々な企業と関わることのできる面白さ」を社員に浸透するため、新規顧客の開拓に取り組んでいる。展示会に積極的に出展し認知度を高めるとともに、来場者の抱える課題を直接聞きだせる場として社員の顧客対応力向上にも役立てている。ホームページも有力な顧客開拓手段となっており、毎日のように全国から「こんな加工ができないか」という相談が入る。

それら様々な注文に対応できる「小回りの利く会社」であるために、技術の向上に終わりはない。ユニークな試作関連企業が集まる「京都試作ネット」の勉強会に参加し、社外からプラスチックだけにとどまらない新たな加工方法を学んでいる。難問があれば、社長を先頭に社員間でコミュニケーションを取りながら解決する。全社員の成長を図りながら、本田社長は「若手が製造現場の責任者になる」ことを近い将来の到達点に掲げる。